資料２－２

<キーワード> 移住・定住の促進 地域の魅力発信 交流人口促進

関係人口創出のための地域づくり事例　～ 住民参加型の番組で地域魅力再発見 ～

実施主体：株式会社道東テレビ（津別町）

取組内容

【町や町民の魅力発信】

○　地元のテレビ局やケーブルテレビのない、映像メディアの空白エリアで、地域に開かれた放送局として、住民が自分たちのマチを語り合う番組づくりに取り組んでいる。

《多彩な番組や取組》

・つべらない話
　毎月第１日曜の午後７時半から、地域住民が津別への思いを本音で語り合う生放送番組
・タウンニュースつべつ
　町職員が地域の話題や町の取組を伝える情報番組
・マチの日常を撮影
　祭りやイベント、スポーツ大会などの様子をアーカイブとして保存
・つべらない音楽
　地元ミュージシャンが演奏を披露する番組
・土と自然とワインとなつこ
　女性農業者がゲストと地域の魅力を語る番組

○　津別町中心部にあった築77年の空き家を改修し、コワーキングスペースを開業。道東テレビの生配信スタジオ、カフェバーやシェアバー等を併設。ファンや協力者をつくり、愛着をもってもらおうと、延べ400人を越える町民にリノベーションに携わってもらった。

《関係人口創出のための場づくり》

・「コワーキングスペース　ジンバ」の開設
　「人」が集まる場、起業や創業の準備をする「陣場」といった意味をかけて「ジンバ」と命名

◇　住民が自らのマチについて語り合う様子を映像として発信することで「伝える力」が増幅。
◇　今住んでいる町民の想いを100年後に届けるため、映像として記録に残す。
◇　番組制作を通して、津別町の人たちが自分のマチの魅力を再発見。
◇　番組制作のための取材が人脈づくりとなり、町民と一緒に番組を制作することが仲間づくりに繋がり、それがまちづくりに繋がる。「ジンバ」を拠点とし、映像を軸としてコミュニティづくりを行っている。

【その他の取組等】

○　上記事業の他に、レンタルキャンピングカー事業やシェアハウス事業等も行い、収益をあげることにより、事業を商売として成立させている。

（参考URL：http://doutou.tv/）

実績・効果

フェイスブックは約3,400人が登録、YouTubeで公開の一部番組では約16,000回再生を記録するなど、人口約4,600人の津別町や町民の魅力発信に貢献している。また、コワーキングスペース　ジンバの貸しスペースは、北海道つべつまちづくり株式会社の社屋として利用されているほか、町の個人事業主にも活用されている。

人の集う場を創出することで、新しいひとの流れをつくり、市街地に少しずつ賑わいを取り戻している。

活用した制度等

・道東エリアリノベーション・プロジェクト・イン津別
　（空き家を利活用したゲストハウスとコワーキングスペースの事業者を選定し援助する取り組み）（津別町）
・北海道創業ビジネスグランプリ（北海道）

苦労・課題

・道内では、まだ先駆者がいない新たな分野の取組であることから、上手く軌道に乗せることができるかという不安やリスクを抱えている。

元気なふるさとづくり研究会委員から

・サロンや場作りはサービス提供者へのメリットを考えて行うことが一番の近道。
・意味のある空間にする意義、場を作ることにより、地域にいろいろな情熱を持った人が生まれる。
・スキル云々ではなく、目標や情熱が大事。

本取組のお問い合わせ先

株式会社道東テレビ　電話：090-4209-1722

<キーワード> 産業の振興 交流人口促進

ＩＣＴを活用して地方への人材回帰を実現！「北見市・サケ（鮭）モデルプロジェクト」

実施主体：北見市

取組内容

【地域課題】

- 各地から北見工業大学などに集まった若年層が、市外へ流出し人口が減少している
- 首都圏に就職した地元人材が、北見市にＵターンする際の雇用環境が整っていない。
- ＩＴ企業が北見市に進出する際に必要となる「スタートアップ人材」が不足している。

北見市は大消費地から遠く、生産物の輸送手段も脆弱で、物流のハンデがあるが、『ＩＴ』は物流を必要としない。

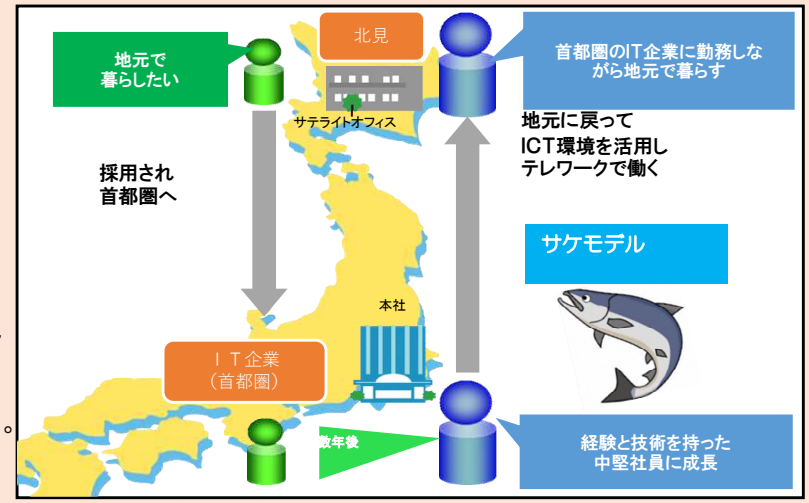
⇒　**首都圏ＩＴ企業の誘致に向けた取組の検討・着手**

【サケ（鮭）モデルの確立】

北見工業大学の学生を首都圏のIT企業本社で採用し、数年後に北見に戻り、事業所開設のスタートアップ人材として活用する人材回帰モデルを確立

○　北見で働きたい学生と、北見に進出したい企業を「マッチング」
○　ＩＣＴを活用したサテライトオフィスなどの働く場所を整備
○　市外に進学した地元出身者が、首都圏の仕事を北見市でテレワーク体験する「ふるさとインターンシップ」を実施
○　首都圏などに就職した地元出身者が、帰省時にテレワークで長期滞在する「帰省型テレワーク」を実施

※　サケ（鮭）モデルや北見市の取組を広く知ってもらうため、首都圏で北見テレワークセミナーや北見工業大学と連携したＰＲイベントを開催。また、親子でテレワークを考えてもらうため、大学や首都圏で社会人として働く子どもを持つ親を対象に、帰省する前のお盆前とお正月前に市民向けセミナーを開催。



（参考URL：http://hatarabukitami.com/house/）

実績・効果

- 平昌五輪に出場した男子カーリング選手が、東京のＩＴ企業を辞めずにＵターンし、地元でテレワークを行っている。
- 実証実験で誘致した企業やサケモデルでの北見進出を計画する首都圏のＩＴ企業がサテライトオフィスを開設。
- 首都圏に就職した地元人材のUターンやテレワークでの長期滞在など、地方への人材回帰が進んでいる。

活用した制度等

- ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業（総務省）（平成27年）
- 地方創生加速化交付金（内閣府）（平成28年）
- 地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年～平成30年）

苦労・課題

- 企業等に対する「北見＝テレワーク」の認知度は向上したが、個人へのＰＲはまだ不十分。
- Ｕ・Ｉターンが見込める地元人材へのＩＣＴ教育と、個人への更なるプロモーションが必要。

元気なふるさとづくり研究会委員から

- 地元を出ると比較する材料が増えるので一度、地元を出たほうが良い。地元の魅力を感じることにより定住の促進に繋がる。
- 戻ってきた人材が新たな産業を作ると面白い。また、他産業がリンクすることにより新たな事業が生まれていくのではないか。

本取組のお問い合わせ先

北見市商工観光部工業振興課工業係　電話：0157-25-1210

<キーワード> 高齢者支援 買物・移動支援 地域コミュニティの活性化

高齢者支援　～ 居場所づくりと買物支援等を一体的に展開 ～

実施主体：社会福祉法人 登別市社会福祉協議会（登別市）

取組内容

【地域拠点丸ごと支え合い事業】

○　登別中央ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰ アーニス内に設置した地域福祉の拠点「あえるＳＴＡＴＩＯＮ」で、ひとり暮らしの高齢者等を対象に「居場所づくり」と「買い物支援」を一体的に実施。

・事業内容／①交流・健康づくり（介護予防体操）　②福祉相談・お茶のみ交流
　　③お食事会（月１回）　④買物（同行・補助）　等
・対 象 者／対象校区に居住する75歳以上のひとり暮らしで、
　　頼れる身内が近隣におらず、日頃の外出や買物に困っている人　等
・利用日時／月４回10時～12時（毎週火・金曜どちらか選択）
・会　　費／月額 3,000 円（送迎無料）

○　市民ボランティア（男女・年齢問わない）が中心に運営。週１回、対象者をアーニスへ車で送迎し、介護予防体操やお茶会で交流してもらうとともに、自由時間には買物に同行したり、その荷物運びを手伝う。また、月１回の食事会も開催し、地域の高齢者の安心した暮らしと笑顔づくりを支える。

《拠点スタッフ》
・拠点の準備、利用者の出迎え
・お茶を飲みながらの話し相手
・買い物への同行 等

《運転・添乗スタッフ》
・利用者の送迎
・荷物運びの手伝い
・買い物への同行　等

※　ボランティアスタッフは、１回の活動につき、アーニス内で使える500円分のサービスチケットと交換できるボランティアポイントを受け取る。（上限／月４回）
　⇒　地元でお金を循環させるとともに、活動への意欲を高め、
　　継続して携わるきっかけとなっている。

《企業等との連携など》

アーニスと協定を結び、アーニスは施設の無償提供のほか、水道光熱費の負担、サービスチケットの精算や請求・交換事務を行うなど、運営面でも協力。社会福祉協議会は、ボランティアスタッフとなる担い手の確保や養成研修の実施のほか、利用会員からの会費で賄えない車両の無償提供を行う。「送迎経費」は社会福祉協議会が負担、「提供場所に係る経費」はアーニスが負担、「運営経費」は利用者の会費で賄う形で事業を展開。

（参考URL：http://kizuna-shakyo.jp/chiiki/aerustation/）

実績・効果

・住民が集う商業施設でのオープンな福祉活動の展開
・介護予防体操による会員の体力向上

市民のボランティアニーズを充足させるとともに、外出機会の少ない高齢者の社会参加を促し、安心した暮らしと笑顔づくりを支えている。

活用した制度等

・集落生活支援複合サービス推進事業交付金（北海道）（平成27年度）
・赤い羽根共同募金（平成29年度、平成30年度）

苦労・課題

・事業範囲外の個別ニーズへの対応
・ボランティアスタッフの確保
・対象校区外での実施や支援

元気なふるさとづくり研究会委員から

・やってくれる人はいないかの担い手探しではなく、その人がやりたいことを探して事業を作ることで、生き生きと活動を行うことができる。
・笑顔と感謝を表現できるよう支援される側を鍛え上げることも重要。

本取組のお問い合わせ先

社会福祉法人 登別市社会福祉協議会　電話：0143-88-0860

<キーワード> 高齢者支援 買物・移動支援

高齢者等の生活支援・買い物支援・就労支援　～ 介護保険制度のスキマに挑戦 ～

実施主体：ＮＰＯ法人御用聞きわらび（白老町）

取組内容

■組織の概要
会員制の有償ボランティア組織（入会金 2,000 円、年会費 0 円）
☆ 利用会員 ＝ 生活の中で手助けしてほしいと思っている人　約350人
☆ 協力会員 ＝ 困っている方を手助けしたいと思っている人　約 25名
平均年齢：【男性】72歳、【女性】63歳
☆ 賛助会員 ＝ 活動の目的・趣旨に賛同し、寄附してくださった人

自宅の窓ふきや草刈りができない

銀行に行くのにタクシーで往復5,000円かかる

引っ越し費用が高額で払えない

食べたいものを自分で選んで買いたい

○ 高齢者や障がい者の声を受け、介護保険制度等ではカバーできない、きめ細かいサービスを提供。
○ 元気な高齢者を協力会員として、生きがいとお小遣い程度の収入の場を提供。

【福祉有償運送事業】
○ 要介護認定者や障がい者手帳を持っている方など、ご自身で公共交通機関を利用することが難しい方を病院や買い物施設、銀行などへ送迎する有償移送サービスを提供。
○ 利用者の多くは、自らバス停や駅まですら移動できない方であるため、自宅から目的地までのドア・ツー・ドアの移送サービスを提供。

※ 「介護保険法」の移送サービスは、要介護者だけを対象とし、行き先は病院に限られることに対し、「道路運送法」に基づく福祉有償運送は、コンビニや銀行、役場など行き先の限定がない。
《利用料金》・運送料　1km　100 円　・待機時間　30分を越えるごとに 500 円
（参考）白老町 タクシー（普通車）　初乗り(1.237kmまで) 550円

【貨物軽自動車運送事業】
○ 高齢者や障がい者などを対象に、引越の梱包、運送、清掃等のサービスを実施。
※ 生活保護者でも何とか利用できる料金体系を設定している。
《利用料金》・交通費は、10kmまで 1,200 円　1km増えるごとに 120円 加算
・荷扱労力費は、一人あたり30分 800 円

【日常生活支援事業】
○ 高齢者や障がい者を対象に、掃除、洗濯、食事作り、ゴミ出し、窓ふき、草刈り、枝切り、玄関前の除雪・氷割りなどの支援サービスを実施。
《利用料金》・作業者一人あたり30分 600 円、60分 1,200 円（除雪・氷割りは30分 700 円）

（参考URL：https://blog.goo.ne.jp/warabi-tyan）

実績・効果

・高齢者生活支援サービス　171名利用
・留守宅管理サービス　3名利用
・福祉有償運送サービス　164名利用
・引越し・不用品運搬処分　28名利用

介護・障がい者支援サービスと連携した生活支援により、サービス利用者の介護予防効果と生活の質の向上に寄与している。

活用した制度等

・地域社会雇用創造事業（内閣府）（平成23年度）
・緊急雇用創出推進事業補助金「高齢者・障がい者日常生活支援」（厚生労働省）（平成25年度）
・集落生活支援複合サービス推進事業交付金（北海道）（平成27年度）
・介護保険新総合事業訪問型サービスB・D（平成30年度～）

苦労・課題

・利用者には低所得者が多いため、最低賃金の急上昇・消費増税等に伴う利用料金の値上げが難しく、厳しい。
・見守りや財産管理などの生活相談が増加しているため、各主体との連携の拡充・後見制度の充実が必要と考えている。

元気なふるさとづくり研究会委員から

・高齢者対策としての交通の問題は、切り離せない。高齢者がいろいろなサービスを受けるためには、移動の障壁を越えていくことが課題。
・人生１００年時代が担い手を探すキーワード。お年寄りが自分の存在価値を再認識して、その機会を支援の中で作っていくことが重要。

本取組のお問い合わせ先

ＮＰＯ法人御用聞きわらび　電話：0144-82-3465

<キーワード> 移住・定住の促進 地域の魅力発信 地域資源の活用

空き家を活用した地域づくり　～ 古い建物を魅力的に再生 ～

実施主体：合同会社 箱バル不動産（函館市）

取組内容

将来にわたり、持続可能な西部地区ならではの暮らしと風景を構築し、
市内外の多様な方々の移住などによる定住人口の回復と、交流人口の底上げを図る

活気を取り戻す

【函館移住計画の実施】
- 地元での暮らしの魅力を発信し、移住者を呼び込む
- 暮らしを体験してもらい移住へつなげる
- 街歩きしながら空き家を巡り、移住者が開業した店舗などを紹介して回る

店は人の流れを変える

【大三坂ﾋﾞﾙﾁﾞﾝｸﾞを拠点に】
- 約100年前に建てられた「旧仁寿生命ﾋﾞﾙ」をﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝ

※ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞを利用しﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝ費用を募る
- 地元住民も利用し、旅人が地域の暮らしを垣間見られる商業ﾋﾞﾙをｺﾝｾﾌﾟﾄに、ﾚｽﾄﾗﾝや貸しｵﾌｨｽｽﾍﾟｰｽなどが入居

ゲストと地域をつなぐ

【SMALL TOWN HOSTELｵｰﾌﾟﾝ】
- 大三坂ﾋﾞﾙﾁﾞﾝｸﾞに併設の古民家を改修し、訪れた人がまちや地域の人と触れ合える場としてｹﾞｽﾄﾊｳｽをｵｰﾌﾟﾝ
- 暮らしを見つける宿として、地元住民が通う店を旅人に紹介し、移住した場合の函館での日常生活をｲﾒｰｼﾞしてもらう

【地域住民を巻き込んだ活動】

○　「旧仁寿生命ﾋﾞﾙ」のリノベーション前に見学会を行うとともに、親子向けのマルシェイベント「SMALL TOWN MARKET」も開催。改修後にも見学会を実施。

○　「SMALL TOWN HOSTEL」の改修工事にあたり、できることは自分たちでDIYをして進め、地域の人にも愛着をもってもらうため、DIYサポーターとして関わってもらう。延べ100人が参加。

○　宿泊者以外の人も気軽に立ち寄れるように、西部地区の商店などが集う「日々のＨｏｕｒマーケット」、「親子英語カフェ」や「小商いトークライブ」などを開催。

【ポイント】

歴史的建造物だけではなく、歯医者や餅屋として活用していた空き家もリノベーションしている。一般的に価値がないと思われている古い建物を、限られた予算の中でいかに付加価値をつけ、魅力的に見せることができるかが重要。

古い建物を、どんな方にどう魅力的に使ってもらうかが一番大事にしているところで、古い建物と人のマッチングを箱バル不動産が担い、古い建物を地域資源として残していくことを目指している。

（参考URL：https://hakobar.com/）

実績・効果

- 活動事例等を発信することで、空き家のオーナーと古民家を探している人からの相談が増えた。
- ゲストハウスの宿泊者から、「また帰ってきたくなる宿」と言ってもらえる。

函館の地域資源の活用に着目して、リピーターの獲得や交流人口の拡大につながっている。

活用した制度等

- ほっかいどう遺産WAON助成（NPO法人北海道遺産協議会）（平成28年度）
- クラウドファンディング（平成29年度）

苦労・課題

- 活動内容をよりシンプルにわかりやすく発信していくこと。
- 事業の収益率を上げなければ、人手不足、時間不足が解消できず、事業拡大が難しくなる。

元気なふるさとづくり研究会委員から

- 潜在的な可視化されていない価値をどうやってプロモーションしていくのかが、歴史的建造物に関わらず重要なポイントと考える。
- 古い建物を魅力的にしても、魅力がない人が購入すると波及力がないので、人が大事だということを改めて感じた。

本取組のお問い合わせ先

合同会社箱バル不動産
お問い合わせURL：https://hakobar.com/contact/

<キーワード> 地域資源の活用 地域の魅力発信

ＩＣＴを活用した地域づくり　～ 忘れたくない町の記録を記憶 ～

実施主体：ハウモリ（森町）

取組内容

【記録の記憶】

○　地域の人や観光客に森町をもっと知ってもらうため、また、森町の歴史を後世に残すため、半世紀ほど前の町並みを写した古い写真をデジタル化し、インターネット上で公開。

○　公開している古い写真の一部は、その写真と同じ場所を訪れ、現在の風景と重ね合わせて撮影する「時層（じそう）写真」として、国土地理院が公開している「地理院地図」をベースに作成したシステム「記録の記憶（https://kirokio.howmori.org）」で公開し、過去と現在を写真で比較できるようにしている。

※　**上記活動が波及した取組**

・　活動に関心を持った立正大学地球環境科学部（埼玉県）の特任講師が、地域連携フィールドワークの一環として、大学生と森高等学校の生徒が一緒に、町の歴史や文化、まちづくりの考え方などを主体的・能動的に学ぶ事を目的に、「記録の記憶」を使った活動「街を知り、街をつくる」を森町で開催。森高等学校の生徒が課外活動として参加し、ハウモリがサポート。2019年４月に、森町で初の写真展を開催。2019年11月には森町文化祭にて2回目となる写真展を開催。

・　この取組に参加した大学生が、故郷の石垣島で同様の活動を始める。教わった手法や地域に果たす役割を伝えるワークショップを開催するなど、森町だけでなく他地域でも活動が展開されている。

【その他の取組】

○　森町の歴史を調べて、その内容をウィキペディアに投稿するイベントを開催。

○　ヒグマの出没情報を収集し、クラウド入力システムにより、いち早く情報を視覚化できる「ひぐまっぷシステム」の開発メンバーとして参加。隣接市町村の出没状況も共有。

○　子どもたちを対象にしたＩＴ人材教育を行うため、大人向けのプログラミングセミナーを開催。セミナー参加者で「モリラボ」を立ち上げ、「地方版IoT推進ラボ（地域におけるIoTを活用した地域課題の解決や新しい事業創出等を推進）」に選定され、モリラボの事務局を運営。

○　他地域（函館市のCode for Hakodate）との連携強化。2019年11月には共同イベントで電子工作ユニットである「ギャル電」(Eテレワクワクさん等でも活躍)を函館蔦屋書店に迎え、子供向け工作ワークショップやトークイベントを実施。

首都圏に向けて活動を発信し、いろいろな賞を受賞したことにより、地元からも活動が認知されてきている。ＩＣＴを活用した活動を通して、多くの人との繋がりができ、そこから多くのアイディアをもらえるようになった。また、同じ志の仲間が集まり、「森町を楽しむ」ことで、森町とハウモリにとって、身のある活動となっている。

（参考URL：https://howmori.org/）

実績・効果

・独自で行っていた記録の記憶に賛同してくれる方が出てきて、立正大学との写真アーカイブ及び地元高校との共同事業に繋がり、他地域展開（現在は石垣市）も行われ始めた。

・モリラボが、森町文化祭に電子工作「メタル盆栽」を出展し好評を得た。また、それをヒーローズリーグ2019（ものづくりコンテスト）に応募したところ、決勝リーグに進出し、審査員２名から個人賞を受賞。

・ＩＣＴを活用した取組により、優れた地域資源を再発見するとともに、活動の範囲が他地域にも広がっている。

活用した制度等

・地方版IoT推進ラボ（経済産業省、独立行政法人情報処理推進機構）（令和元年度）

・Code for Japan ブリゲード（一般社団法人 コード・フォー・ジャパン）

・北海道テレコム懇談会会員（北海道テレコム懇談会）

苦労・課題

・「特にない」と言い切れるくらい身の丈にあった取組にチャレンジするための資金の獲得無理のない活動をしている。あえて課題をあげるならば、新しく面白い取組にチャレンジするための資金の獲得。

元気なふるさとづくり研究会委員から

・　通常は町外に出て自分のまちの良さに気付くが、森町にずっと住んでいて、この活動をしているのが素晴らしい。

・　楽しく、かっこよく活動しているうちに、何かを解決していき、また大勢の人を巻き込んでいくネットワーク的なモデル。

・　トライ＆エラーはＩＴだからこそやりやすい。現代的な地方の地域課題解決にとても良い。

本取組のお問い合わせ先

ハウモリ　代表　山形

公式サイト上コンタクトフォーム及びTwitter(@howmori)